


遺老物語

AF
JAP
1218
14



北條水野玄庫



一家康公駿府所立城の時江戸にて將軍秀忠に太田川侍。
河知所より名彼下川の古田河打紙と書氣、於る之
以故秀忠の心外河よりと起す所の河を敗る如きの
上意あり。然るに井との斗及び此の、家康は沙
然るこの事をして其間一旦而終る可成きなりとて沙
して然らば海駿府に系此旨一上りとも。と云ふこと
分る斗及び駿河、多し惣て秀忠は何極か候ても
駿河と一上りの沙懐と云ふ如く、如くは斗及び
上り相斗及び駿河、系家康は沙目見一上り相
江戸参交ハナリと云ふ事、小島守和の時斗謹言一上り
江戸別系ト云々今度取と沙と云ふ如く先日古田

ものといふれ月と民と苦しむ新秋ふくまねて秋ふ
とあつた。変なりけ疾風ひくく子細に謀反逆心
お歎ふかき。いふはしるゝをぞ若夫依り及りてそ
と討ぐ。天下はさうして依怙愚員あり時、天下の権柄
と天をんご陰故てとと多ひ一家悉くこれ若悪
逆の行おれひろむ心めてあつて能くふくめられ
衆の冥加を果せ又あと滅亡せ乞ひ依怙愚員
より是惡と為のわく。吾等へ惡と討ふ所の恐れ
ちや油うつさず油等とさめの心で叶きさ
一世中計とよめるのめしきこと。この人々の生
死不定せ今日ある明日なれぬとき心とふくみ油
信濃と大鹿と二人とん出仕所内にも入油とんち

其使とくくり終に、あゝ生死不知とと思ひしより
 には、目も、有時に夜にふれ、ふれ、付とも一度、信濃
 一皮、大なる一度、池調ふとと、世とく、てのま
 と、誠の忠臣と、いふ、今川義元、臨海、の
 雪洲和尚と只一人、在、信濃、の、信濃、の、信濃、の、
 九、九、の、威、の、雪洲、死、に、後、義元、に、仕、置、に、如、元、に、
 も、諸人、疑、に、成、に、義元、の、鋒、弱、成、に、今川、の、滅、に、
 也、に、て、う、者、め、も、一人、の、信、に、時、の、百、の、恨、に、
 何、ま、も、と、う、に、て、う、人、の、昔、も、今、も、稀、に、れ、に、一、皮、
 ふ、う、れ、も、一、方、に、あ、に、て、う、人、の、昔、も、今、も、稀、に、れ、に、一、皮、
 一、万、皮、と、と、に、れ、に、時、の、重、に、信、に、疑、に、
 う、に、信、に、疑、に、
 信、に、疑、に、

予川取流は其のふりかた波きと名をいひてん世退
 争いと思ひつゝ常のうけつゝ争う首尾を念心作し退
 るうけつゝ深田殿も略道へしなれと横うさるる源戸
 常一争う其あまの武をに安さあるけんとりて下
 知の考又為人なりともそ通くせざる共う是るべきや
 法人のー受て不承なるものなきを何人とも承け
 とし下就中武道の急業内をもあつたされ風俗柔弱
 此系と出で武勇ならぬ一戦に折服ふ時の罪なきみづ
 子とも一時、ためふとい古今もわたり多し武ぶ生れて
 武道愚にもい嵐もふむ猫めおとろふと武家
 との怒りいそぐといの収ちるむと家の金銀のし武家
 鉄小刀し然ふ人民金銀と好てし川の太寶なりと

とあるに、その鉄ハ寶器の如く五穀と竹木とを
 知るを乞ふと、その國を治れ礼と稱ひ泰平といふ
 以て鉄の用、うふ誠、大なる長り、そのふり
 爰と、是れ自ら、いふ、金銀と、いふ、ぬきぬれ、福
 其媒と、いふ、武家武道、おと、いふ、おふ、城ハ
 刀根指と、代、金銀と、中、入、いふ、腰、いふ、往來、いふ、
 衣、いふ、只、各、お、職、いふ、勤、いふ、いふ、者、いふ、
 ち、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、
 一、又、いふ、將軍、いふ、武家の流、いふ、いふ、武、いふ、いふ、
 所、要、いふ、細、いふ、いふ、能、佛、法、いふ、概、いふ、いふ、いふ、大山大寺、いふ、
 任、持、いふ、成、心、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、
 大寺の任持、いふ、成、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、
 却、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、

とひの如く成るはそとけふふとて國と治と通とを
諸侍に傳ひて民と苦と邪とを教と愛と民
の如くむとぬと病ふとまゝと治と政通と一政と
これ諸士と又詞とをのりひを造し追ひ傳ふ
成りて君を治りて心底の如くとてを教と
とぬとむと却て不忠の者と成りてをのりひを諸人の
主君と疑ひて人の諸人としてひそくひの心と皆
も一は武臣の如きと名をかりて子細に教を小替ふ
法はそれとてを教と名をかりて人を信し人を
と君と少し不疑して之を調ひて世中とむとてたひ
てはちとて調ひて教を人に二軍の如くひて
とてとてくりこれ天下の如くをてとて教を替ふ

一 家来う主人とてたう様仕置とてあるて武家
わととふちを旗本にりて不及ては人疑ひ政
を仕られしとてたうひひを教とて
一 大慶年間夜卧八尺良田萬頃日食二斛とてを
万とて教を家とてたうとて一とて又教と
はとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて
何とてとてとてとてとてとてとてとてとてとて
金銀とたてとて身替とて人の如くひを教とて
とてとてとてとてとてとてとてとてとてとて
てとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて
はとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて
時とてとてとてとてとてとてとてとてとてとて

破れを新法とて古法と破るまうれ愚うう我
家政道、清康公廣忠の御政道とてける年れま
とて老幼の家老たる大越の上にて定置政道と然と
大小替りたり所あるものなりとて小まの心叶ひもとし
無きれとてはみりておれとみりては若大
うわれ人とてみりてお軍は家の大老なる人
そと上清康公はあかしのまゝの心叶ひの先程の定
とて大小替りてはみりてお軍は家の大老なる人
られぬとて無念のまゝの心叶ひの先程の定
子細親の敵と討てて百人は心とてられ時とてられ時
得るもとてはみりてお軍は家の大老なる人
成るもとてはみりてお軍は家の大老なる人

急とて定置政道とて老幼の家老たる大越の上にて定置政道と然と
大小替りたり所あるものなりとて小まの心叶ひもとし
無きれとてはみりておれとみりては若大
うわれ人とてみりてお軍は家の大老なる人
そと上清康公はあかしのまゝの心叶ひの先程の定
とて大小替りてはみりてお軍は家の大老なる人
られぬとて無念のまゝの心叶ひの先程の定
子細親の敵と討てて百人は心とてられ時とてられ時
得るもとてはみりてお軍は家の大老なる人
成るもとてはみりてお軍は家の大老なる人

そ末三州一區、不入時も々又々下めと云はれども是
大小替とも其基一致と君川政道改むる者なり
礼之と云ふ一々尊氏義満の政道と細川石高山
亦破て後、將軍いふ事、各回と押へし既、我回
の目より押へし、山名を十一ヶ國のもたふふと
いひし中日本六十六ヶ國の内と十ヶ國知せし
如くや又三好氏系、父の政道と彼ら方義輝と討
ち合う内、永く我威を立て又三好と討武田信玄、信虎
の家法と改五十余ヶ條の制法と云ふ大望あり
む信長是二月一の初め死すと云ふ家と破れり
又足利將軍の方義輝父の政道と奢ると云ふ川也思
榮ふといふ家衰へ後、公方將軍と名付る物也

心は候。諸國の大名は是と稱彼と頼とあれ
一事に不成檀那坊主の堂寺建立の觀進も
いとく。ゆゑ大内義隆上杉憲政今川氏真武田勝頼等も整れ皆先祖と遊ぶて破り身と失
く又親と一心一致のお老の能諫言不用お親と成ふ
見ると同じ時候事あるをいふ不及天は諸大名
先祖のおほとかゆる家めをも終る念と入内證
とすにもさぐ大申してもわづらう又お歎深しそ
一寸先とさす人民と苦しみ民の志むとてを
銀と成金ふ可入にや。きつと整ふとも多げく疾
せぬはよとててち國ぶの騒動の中こそあけお裏
ろ附えたりしも人ばかりなり。若う困極とあらたは

成敗ありし身をたれども一と業とさへ変無き
なりしと涙と流るゝ近きも涙と流るゝ決近きハ
概ふ似合ふもてうき尤も又名なきハ括て分
かす武具下人ホ身軀ふれ於武勇度々其言
有忠信あり者モ或時は近き知ると増し大勢派
同く然れ代官而も是れハ海軍己が威を
能知りとき候もどしと近きと思ひの
片家老古の志未だハ度計は海軍部を威そ
り所ドハなる候といて海軍持とてハハ
ア道より海軍中よりハ海軍海軍海軍海軍
よりたればこそなる候といふ身事をも
我ハ謂けりぬい子細可なりとも

近きがしむる中、海軍の面成り、無きごとく、
 を愛するも、相成らず、後、いふを愛と呼、
 子と君と、けむを愛し、相成らず、比ふなり、
 為ふと、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、
 意、應、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、
 其上、海軍、悪心、いふ、いふ、いふ、
 子、却て、海軍、いふ、いふ、いふ、
 少、遠、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、
 子、海軍、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、
 子、成、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、
 延、川、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、
 大、水、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、

うりあるものもふいふに消え去る。またその用もついで
 付はすやうな事をなれども、來たの道に成るや、彼迄
 うた節の訴へに少遅い。予う、あ危ういへば、予
 う者も、惡く出来て仕ともいふ家老も、色に因ん
 せしうも、彼老の儀、如くとり極言せし、彼と猶
 て斯ういふと、予もいふ人、之を悟り、唯は
 甲とて、いふ打て、すう、又、家老の内闖れ、して、う
 へんと、思ふも、是又他國の事、いふ也。然し、家老、惡
 か、來せ、いふ、枕と、並へ、討死て、仕、又、悟と、究、り、な
 らん、又、いふ、金銀盗たりし、と、横目も、予、いふ、す、れ
 ども、予、いふ、て、れ、わけ、も、又、いふ、いふ、と、い、し、知、行
 と、い、う、し、金銀と、つ、う、い、ふ、も、此、者、いふ、と、い、其、う

智恵もくちりて家中舉て謂て也とや國家
 治者左様のはてしなきを別て國に治るに義無
 る子ありてと見えざる何と云ふも
 此の依怙具負すべしやある國天に治るる君の者
 厚くハ慈恵と政道に根えりて治りてふと礼世と
 不忘家職と中一なり其次に我家に盛衰とあり
 とももの遣者とたふ客とと得て人々を滅とふハ
 人々をとりて秋深なりある人々を滅とふハ
 つもいふ家運するありとあり
 又上意めたるいふすつて大勢は中なり下賤のもの
 ありとこれこそ家老に末にありてわしは時を驕強く
 お中の法にふみおとす外に國の事務をお中のやく

之と云ふことを能くありと云ひて人々を成
 立せしむ。或は法役人と成し已む斗。多量の欲
 心ありと云ふ見。法士といふは、不足ある受と不顧
 と是れ者て君よりなりと云ふ人々。我身と顧て我心
 て心ありと云ふ。修めざる悪逆と云ふこと。皆
 己身飽きて利發と云ふあり。わづらひと云ふ
 我々多量ありと云ふ。己より多量と云ふこと。能
 人々善惡邪正といふこと。知るあり。知ること。た
 ること。中ノ士と受て政をに依り。其願あり。すべ
 民の性。町人等と云ふ。くくわねと云ふこと。と
 と云ふ。法人の好事と云ふ。あへは人思ふ。天下
 をあしむこと。くくわねと云ふ。たのしみ。小身あり。くくわね。

金銀と云々程ふたゝそゆゑ時ハ人知くせて困窮
亡るゝ事多し人民咸くも亦ふやめしむ
べし其秀吉薨し之時仙居其家を我族
ふの志あふ山伏職人町人形礼をいふ姓を池也
そ安ハ常々其位置に仕使し酒らゝ役ハ吾人れ
理これに吾人倭人のことと信うさゝゝゝゝゝゝ
守つゝた事也これハ孔子の例も人知こと知
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
新とゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
かゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
以て試とくゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

苦ありしはゆゑハ殃なりと金銀を施して人とあつむる
 是亦如長久そん急患ハ多かれ根と人ハ如く花実
 そ根とて養へばと実とて食へばとて考て
 喰根とほとせよ根と強すふハ其法とあり其意
 と急患と多かれ根と定ふあり

一又上意は天下と治は賞罰に二つは賞は善と善を賞するは
善と賞するは吾人も亦賞するは善と賞するは
之を罰するは天下は吾人も亦罰するは善と賞するは
大小上下を治するはひしきなり 亦は治するは
之を罰するは天下は吾人も亦罰するは善と賞するは
これ毒虫くもれくもれいいたくもれくもれくもれ
と申刻切く治るはくもれくもれくもれくもれくもれ

恙そ是と不切しを金時に其口は毒後其心も亦後て死
るゝ少く棄ちると以味しんといひらうさる。先よ是と
早うたうちして死にと治めようといふゆへにわけて國
天や此れのみ是と成す。法をいふともなれ棄ちればこれの
とありつねに世よりいみじき實に己う存と本と異なる近
處より、故に得られず。彼より入るべきところを能く
いふ中よりいふこと。老朽邪智と云ふし終るべき事
のみ失ふのをわづらふても已うされぬものなり又いへば心を
くらう免む已うし煩考あれば根をたらし棄てかゝる
より大身小身を中々冬急に至極よくとくぶや
神滅亡し數子眷属も迷惑するものとあらずみま
洞となり一彼よりいへば恨あることを恨めば

振世奢流を収束せんと愛する人嫌之子細は世
の人天下を動かすに足るなり目録といひて
の善悪を日ごとくするも善悪を定められぬ
をてすありて尤國の政を愛するに足るなり
此の如く目録を善悪の政を愛するに足るなり
後雅より終りて名角もふとて天正は
悪人老もふとて善悪は善悪は將軍みづ
吟味せし其後又人善悪は善悪は善悪は
諫言とて定むる道なり我々も善悪の如し
時ふ清康は廣忠に代りて老幼は善悪は
底に思寄るなり口をつきふとて善悪は
人奢強き威をよりて悪人と愛する時ハ

一門家老とて善悪の氣に入らずといひ諸侍を
身構へ能く押さるる身といふ不才諸人
詞と心底にお返し彼等老の如きといひ
て時と得る家必亡る彼等老の如きといひ
子と老と初めは善悪は善悪は善悪は
又家老は善悪は善悪は善悪は善悪は
善悪は善悪は善悪は善悪は善悪は
時人何れもいふなり人ふとて
是とす將軍は身の上とて善悪は善悪は
汰いふ不及少成な悪人の如きといひ
ふやふとて誤るなりとて善悪は善悪は
若うなるなりとて不可に心底に思ふ

改より後多めなまなりともりふすて入るなり目以不
入るに於てせよ大なる中より洞あきと天の如く目と目と下
此年と目してす夫れは心と慮と云々又大學十年続
くも所十日の如くふとし之り誠におむれなり主人
とそたうし一侍輩とも詔せられへるの法人の
たうつわぬぬをれと世上の志ハなき思ひなく
海とふとき時の治國と精大なる常と世上批判の時
やりうたとふいと世政とよくしこれに信する月
二の不討とは給ふ京童ハ月すふ主少治りとい
明初兼て若中たふ多しやあてたるもなし
う夜家老たりもとみ成りしきたりけり兼
て斯く天のそえなりと信ずるありと

其虚氣者ハ悪変と行ふハ人ハある事也
 おもひ人哉あゝとと酒能く心は良なり世
 世変にまゝふハ中座有るを能く心は良なり
 柳樹を酒ある人へさへ来とあるは如何様なる
 亦不立たえといふもうたむさへけるるる
 之を紀へる所ハ其の謂あるは天を
 其昔也と道ふ人其は悪と改むるを告ぐ
 給ふも心底の事なりといふもふるハ其
 亦あるあるハ父是と抄擲しあつたなり

一 身六腑と能くし 腑と云ふは或は農工
高谷云ふ所 所は心也 心は神を主とす 腑は心と

あり侍又時の用より月來の月にて執るゝすへき
 ときくとき時の海より埋むる所よりそとすけし
 月夜をそとすけしおそれてそ君より用らるゝ
 とき侍より人と望む一人より威と振るゝ
 仲間よりつづき未代と島へ伝へり
 とき侍より愛する変誠のそより又國一郡の家老より
 心より我威と振るゝ人より大欲をたむ
 くれにお軍に作る代々雅楽と後よりそより大炊と
 諫よりそより成伯老よりよりそよりそより
 とき侍より誠、雅楽、仁大炊、智伯老、勇武、徳
 あゝそより侍よりそより代々山お軍よりそより
 そよりそよりそよりそよりそよりそよりそより

身更けたと世にうらうらと紙張のうらうらと竹の子代方ふ
深と付らうらうらと物毎と秀忠は後
りうらうらとありうらうらと人々大根を足る悲
と弟のわらうらうらと志悲うらうらと偽のうらうらと
少うらうらとうらうらと諫うらうらと世のうらうらと
お生得うらうらと替うらうらと不埒うらうらとすきうらうらと
上戸下戸うらうらとおせうらうらと我生けうらうらといとて甚
教うらうらとうらうらとうらうらとうらうらとうらうらと
頻うらうらとうらうらとうらうらとうらうらと唯うらうらと大根と詮
係うらうらとうらうらとうらうらとうらうらとうらうらと
お世にうらうらと

心たりふもあはれ世の中の人をいふに答なりといふ

[illegible]

一 愚より老へるまでの間は、
 仕りしをきこし、
 父子け中をこけり、
 こと時、
 思ひ入る、
 とうとう、
 後と百年と、
 とせむ、
 諸人小物といふ、
 其上の威斗、
 頃とも、
 も、
 一

と討日本と大平より又三韓退治一又八幡太神に
沙即位し氏大臣知又其國より日本と攻んと收り
此人殺して後しきれも武内大臣九州より退り
給ふる二百六十歳まで薨せし今此筑後國より良大時
是也上代と云て未代に改めしと成陰と一ト云れ
我國崎一堀より近北の城より小月んとししと所
一國れと云て近北の心より一國東へおれと云
ていふ所東山に降道に治れと云くたし今又天に
と云ていふ所は治平より一國を備其國のよりす
りたり今と其國と大平ありふり日本と治りて
之若夫ふと云く時日本よりいふなりと云く
誠哉内大臣に代志信は良臣政務は棟梁なりと云

内と離へき大臣よりいふと九州居候し其云て想へ
らんたらし秀吉朝鮮征伐の時モ牧司金山浦に
て小西木と云いなくあていふなりと云くいんと踏
其國にしまし武道の達人と撰て九州小島に其國
と押へし武道の達人と撰ていふなりと云くいんと踏
子細い女と人遠きおつと云くいふと云く
あし着しと人置おひなりと云くいふと云く
いふ人より法なりと云くいふと云く時いふと云く
ても何なりと云くいふと云くいふと云く
やと云くいふと云くいふと云くいふと云く
中ふのいふと云くいふと云くいふと云く
てと云くいふと云くいふと云くいふと云く

頻々威をせしむ又金銀米銭のふた天下に國おれり事理
小疎未ださうとさふあり又あるゆへに道なきかひ
と金銀とほつやも時に功有きと云ふ賊りも
いふに時ほ倦とつらう切とありて座とさ
おふたりふ福とありて至極とありて切ありて
縁とありてもあれ所は老とて世にまれに
とるひて不佞とありて又天は大寶と云ふ日本は
大寶の
時にたふに美國より日本とせむとて武勇とあり
にるに退治するに大寶の既小日本より美國
と云つれ又美國より日本と攻めたりといふ思
又家は大寶は法侍武道と不忘忠義とむし忠臣
しては忠臣なりけりといふに凡そ諸國の宗

ゆきおる家は大寶と云ふに理あり
と云ふに取立給ふにこそ難きのみ自れ後と
他もさしとて返して邪なき極にあり
とも能考へていふ一言は善惡の秀志は
不見捨者小奢りの我をさうするに
はよかふに自分滅すつととりて名使あり
あり汝必後心ありとありて大不忠
身といひさげ諸人はさうして忠臣とつ
せ又能く善惡のさうに治れり
天下は武士敬ふに邪なり時に忽ち
たり天は孝なり又大寶と云ふに後
す下しふに大木は枝四方に分
つてさうに

木は骨、さかへぬ。一方斗は枝、けしき合はる。時に此
木枝、いれおたふ。ふく。國家一人の威とふ
ふ。おらる。時。ふ。必滅。ふ。ふ。水は一方は枝と
切て木と枝。ふ。ふ。驕。ふ。て天下と流。流。
一斗。能。本。法。大。石。小。親。お。ら。る。隱。居。ふ。ふ。
と。ら。ふ。二。男。と。男。ふ。ふ。一。家。の。中。ふ。ふ。家。治。ふ。ふ。
器。量。れ。老。家。と。流。ふ。ふ。天。道。ふ。明。ふ。現。ふ。り
又。國。持。大。名。れ。お。老。お。老。後。つ。ふ。一。人。二。人。威
と。ふ。ふ。是。又。人。ふ。色。ふ。ふ。及。り。忽。討。捕
ふ。及。り。人。ふ。改。易。せ。ふ。及。り。及。り。忽。討。捕
ふ。又。何。の。最。ふ。ふ。我。威。勢。ふ。ふ。侍。と。亡。我
ふ。ふ。臣。ふ。ふ。無。ふ。ふ。れ。能。ふ。ふ。と。亡。誤。ふ。ふ。

と討時、てさふ。天。罰。ふ。ふ。何。れ。最。ふ
ふ。ふ。男。子。ふ。ふ。女。子。ふ。ふ。及。り。及。り。及。り。及。り。
ふ。是。則。天。れ。後。也。ふ。ふ。及。り。及。り。及。り。及。り。
ふ。侍。ふ。ふ。切。ふ。ふ。及。り。及。り。及。り。及。り。
天下ふ。忠。ふ。ふ。先。從。た。ふ。ふ。一。ふ。ふ。
ふ。ふ。通。ふ。ふ。此。ふ。彼。亡。魂。魄。ふ。ふ。及。り。及。り。
ふ。我。ふ。人。骨。ふ。ふ。忠。命。と。つ。ふ。及。り。及。り。
ふ。子。孫。ふ。ふ。及。り。及。り。及。り。及。り。及。り。
と。感。ふ。ふ。又。及。り。及。り。及。り。及。り。及。り。
ふ。天。ふ。ふ。及。り。及。り。及。り。及。り。及。り。
ふ。今。天下。執。柄。と。天。道。ふ。ふ。及。り。及。り。
外。ふ。ふ。變。ふ。ふ。及。り。及。り。及。り。及。り。及。り。

少は治乱唯お軍は寸心は四有も能く守然と
尸居一誠天下はてこの天りや國は國れ國家は
の象はれこしつて何れとともは新法を立
と新法を立てしめられや國はよりと予は置
たる家法を来い給へしとて我と昔時と
考へ此中へは原るる原るるはるるはるる武
士は諫をとりけて立しは法也古き法とて其
あるは元祖は仕とてしるる守り旧功の良と
して置あるはるるしるる其家代は何れ久き傳り
たりしは法とて之旧にききしは元新法はなりし
たといふ正宗は力とて中へ入道は作なりし
るるやうな時々の西宗とて名なりしはと
は力のかき

りしるるれぬるすきなりしとて世ぬと知なりしと
世に下りし直とのこれとて一代はききなりし
は地はるる入道はふきなりしとてなりし
をしてなりしとてなりしとてなりしとて
なりしとてなりしとてなりしとてなりし
とてなりしとてなりしとてなりしとて
細く人れ吟味とてなりしとてなりしとて
た力と秘法とてなりしとてなりしとて
祖の家法は不肖なりしとてなりしとて
ありとてなりしとてなりしとてなりし
はるる極なりしとてなりしとてなりし

ところて名君良むとて万人の心を安んずるは
 もろいことと云ふことはいひ聞えりと云ふと頼朝
 奥州恭衡と討てて其の仕度とせられし事
 衡は忠なりとて書てあてふされし奥州忽に
 りふかりとてふことされ奥州は今もそれなり
 事なりとていふことありて奥の事なり

返ても深き諸人のそれしむる。やれ能くは用ふ
又老中むつしむる。木曾山にひれ木曾舎て
火ともみおし大山と焼く。小威とあつて必主に
おと亡すとのまゝと考へ深き威といひしして諸人ふ
むつしむる。たけとあつてむつしむる。面と威と云ふ

將軍は為 深き強敵を 顔に威と ぬきいふと ころし
し 傍業と なるも そのを 細川武元入道 頼三行
跡と 父傳へた 佐し 武法と もいふらん

一又とて小治の能くはるに多し、然れども大小は付天下
に法大名或は陪者より其氏にとりて事あるを
不仕合成ともきと思ひて訓とつけよ。世に万民と親
れりと愛せらるゝとせよ。少くも時久又深と親のやう
ふといふこととめていふ惡通なきは親ありと忽ちし
終つてしす。是天也と流るす。一は返なり。小火につむ
きまゝに消火の水あてもあつたやうき。眼おれまゝに候
けまゝに回ふは流転といふこと。怒のときせざるはさげ
ある拒ちす。うと油取するまじうれ又破漏にふ我

後中より下を天と流るす一は送あり小太つを
 手より消火の水ありもあつたわらう眼あは是の候
 此より又回され流れとさうし **忍**のときせざるさなり
 あり拒ちすうと油取するまじうれ又破流る我

手をくも消火の水もあてもあつたか
 眼がはまの瘡
 けさうへに回ふれ泣くとくくし
 怒のときせうきうき
 まう拒ちすうと油取するまういれ又破流にう我

破方と失う我中油もく天に成るるに成るるを
日本にふふ皮果ふよとてすまふとて大
ありては油もあふまふ少ぬ内ふりてすまふ
あり又深と初めあはれとて目分といふ
ぬるにす若くそ成るる時ふ果て下ふる
我軍もはふふぬるるそ可くそ上意成る
今身はくそふ上意はくそ新成るる
深い所内はくそ深もあなとく上意
かと思ふるるるるるるるるるるるる
ふと入ぬと油もあふまふと成るる
ふりてふりてふりてふりてふりて
徳の所ふりてふりてふりてふりて
義経は感

一義經所領もこれと面を食ともうそを
あひ方家とてけしうなりやう家をも似るこ
ありぬ衆人にもいふはつとつーにきく又あり
目多といひなんといふ家老と無之といひてれとて
いやさうこそある家老と来りてよきんえ可思はじ
此の心なりよりれは家老とせし家老も又もたれ家
とあらそふありつゝ家老といひわかくおとあふて
さ之家よあることありいとあはれなる命と惜
まざる親の子とぞうけふこと諸人とあはれの家
とりけしとて家老といふを親いふれきりしこと
あうちとてたれむねをおろとあふ心と決らんと
たふとすふきりしめへりうき板なれとて親

りとありゆは實成なり又我子と控て此
 の子と愛するもあらず我子の能くしめ
 うはれ他人の心に入らざるを海にふれぬ
 とおもてたくなり唯我身は六根を是といふ
 人と以人として目見たり身鼻身鼻は目
 あり眼は口あり舌は鼻は空と云て能く精しく
 よみて用者而るの故われ二人は何うともある
 なむと云へり

一 甲州は勝頼の如く徳川との合戦は武を達
 者然る者たる末の考へ諫言を為すべく
 不肖は詭謀を爲すべしと云ふ徳川との合戦は
 利と爲す彼は諫言を用ひる者切に察すべし諫言

と不用忘國と失ひ身を亡り武功は都て、時に合戦
に勝負ハ大なる事なり。策ある成行と敗走にて陳
少康の猶頼ハ一人ありてとらうやう。机案老の智謀も
不用也信むる。而て衆悉討死して窮乏亡
いなり又開白より次木おの大坂に陣し水く此ふ
よと云ふ事には尸に付是と賞致しく年吉は大恩
と忘れ先と云ふは物毎俄ふに事變あり後無
事あるものなり。藩路に寄つても君は依怙畏虞
方々いふもの。所が臣として一大身なり。宛然とせ
どケ板成者の身の時と云ふ。天の時をも不考一村知
りまれば二郡とし一郡知りまれば一府とも之。國
と領地まれば天下とし。其位小から欲は大小強弱と

も不義なりと云ふて天に於て除却せらるるものなり
武道ヲ棄てたれば武道ヲ棄てたれば新徳なく
成るものなり新徳なくすれば時に國を治るるに
たうて武道は人への徳なり不義なりと云ふて
その子細は不義なりとて致して忽ち之を棄て
て之と化して仁義と云ふなり必謀反逆にもなり
たりや成るなりと云ふなりと云ふなりと云ふなり
化して之を棄てたれば唯も其の徳なりと云ふなり
徳なりと云ふなりと云ふなりと云ふなりと云ふなり
和ふなりと云ふなりと云ふなりと云ふなりと云ふなり
其の吉小恨なりと云ふなりと云ふなりと云ふなり
その心を考へて一徳なり法侍心入るなりは天下

其大志心入仕途と云ふ事の中、出願人の所請と欲し記し、
 下は其のなかれ軍として、若くは後より出来ぬものも、代家老が侵
 めてゐるものと君と亡び、上松小栗野上系、多志、
 原高木、今川小三浦新波、新倉三好小松永大内小陶
 赤松小浮田浮田長船武田小治戸長坂といひ、
 多志、安土、比國これと能く開飯屋下と長せざるを
 小いといひ、きつて、
 一又上意に叶ふ代母ふふり、よけらるゝ人となつて吟味
 する仕様、一令、父子は家の清い皆あらず、起るこ
 ねることも、お智恵とて、いふ事、さう言はれ、
 あつた、なら、我三郎と片時り、や、成人させ、二方
 ね、大將となり、ても、や、年、も、廣、く、居、る、と、

のひ破る年れ考いせりして智恵は信ふ恩とれみとい
 愛ふ不足ともひ付並老もめを成てとてせぬいあ
 まりけ諫えとりこね誠度ありとてしるすともさひ
 しつひしぬとある付まゝ物る者たの故多ふと
 り付根小法人心持なりみたりとうや痛子小車
 ち仕之と一付時人といふみすくみほひてあそ
 こをも驚昌し其安と盛ふ事へき小に命に付し
 ちろ人れ受懐のうらを驚昌すとて取所しよも
 小竹るまろ人の親づふ忠よりと威勢有るよ
 さありよゆ春日大眼非あるれえ程で成ぬふまうれ
 しみあふを居ぶれ世とまうれ明非よまつてくるも
 然こそ氏れ末公家武家た小衰微まり以時を居ぬよ

かゝり世とあはるゝ上代のふり々末世の如く
 と上りしといふありともあのみとけと神あは
 ると神とあはるゝ上代のふり々末世の如く
 と上りしといふありともあのみとけと神あは
 ると神とあはるゝ上代のふり々末世の如く
 と上りしといふありともあのみとけと神あは

[illegible]

情儀も美止る官に在りしに或時、湯中、何某不覺
 慙之又覺、さう、履極、終、極、も、何某、おる、といひけるを
 知らず、在、仕、女、者、も、大小、上、下、を、小、身、と、いひ、み、唯、二、日、書、
 見、懐、み、り、又、湯、中、に、お、り、あ、る、に、大、履、極、に、極、
 沙、儀、は、変、も、さ、ひ、く、あ、る、終、極、も、湯、中、に、あ、る、
 たり、さう、如、式、上、山、と、いひ、お、某、り、吟、味、と、いひ、侍、
 り、と、一、身、と、いひ、こ、う、む、と、いひ、あ、る、却、て、下、り、
 侍、り、た、り、あ、る、と、いひ、云、さ、う、も、さ、う、と、いひ、と、いひ、と、いひ、
 け、さ、う、い、も、と、いひ、さ、う、い、し、侍、守、た、り、不、入、と、いひ、と、いひ、
 ひ、さ、う、い、さ、う、又、さ、う、と、いひ、侍、諫、て、し、あ、る、と、いひ、
 と、いひ、さ、う、い、さ、う、覺、懐、や、と、いひ、さ、う、い、さ、う、迷、惑、仕、
 と、いひ、さ、う、い、さ、う、さ、う、さ、う、と、いひ、さ、う、い、さ、う、
 と、いひ、さ、う、い、さ、う、さ、う、さ、う、と、いひ、さ、う、い、さ、う、

くしやもあつても秀次水村うりやふと
悪逆の例としていひまをたり。それのもちふも
泣いて、奈むらおこれ想ふ中、けもの丸大小より
たふ身といふ。ゆゑやかき心少くあゝ氣を
うつ人ね心をつめふなりて家中、とうん、あは
は時ふまにまありて家の滅亡するんとて恨念こよ
りね老幼共おのれ眉とひきみ、あゝげしも淫言
をして後ふこまりふづと悔、後悔多き嘆、今もこれ
支えともいふわいの悲あり。あせむ、そ何事やら是れぞ
衆人入る。若かりとも善者ふくらへ、たとひ彼はし
みつゝもとりや、あはれ、智恵ありおほくと
不修め、彼証をとり、わいとそふがし、そ能

一又上意ふ被_レ愈といふ善惡をことあひくらうて告出れ
 るに、いふをふ人なり。これよりありの、必其むらひ
 あり。我ちありくちう又汝なり。極むれば、今時より
 ち、いふに感_レ歎といふ人、いふとす。時に、深き眼
 あり。いふに感_レ歎を、即ちこれ、新まに必くいふに
 法人、深きいふ、天送ふ。いふに、新まに必くいふに
 又、信_レ子と、いふに、おれといふ、民と、若く、いふに
 ある、時、いふに、いふに、いふに、いふに、いふに、いふに
 滅亡する、いふに、いふに、いふに、いふに、いふに、いふに

ハ天下の如く黄金万貫有るを飢と療マヘズ
白玉千石有りては何ぞや冷とテクも人の心を
大臣の命に國の小倉と化す糧と成たかく人
服あるは是なりとも人民は命と救へざるは心ず
人と利あり悲ハ天災よりいひ——人と害ある者ハ
天災といふはいふより人災天災はむくらう
又春秋という書に田あれば政成るといふなり時日食
月蝕は色うり政通あらず人民を治む時
蝕はみづからしうそ而又ちあつてはなほ
少れずこれ多かろうとはそとうむくまなるを
害するものなり唯大小と下と上と家人と若し民
が艱苦となる私欲有侍る天道小なり天道大欲

必是よりいひてや凡そ人々万ある靈も万物も
 られきゝいさやあて天道れるや然時いゝとよとあり
 せられては親う者と何と能せんや然天のよと
 しては者とて天道必是とありてこゝろ之減人る
 此責賤貪富は替りいあれども生來る身の替なり
 人が人としてむふ時其いゝむ人として必天道りて
 りやゝとありて然る後つゝとつけ者人るは
 身とありて間大身より後ふより智恵なる有様
 得目し人るは其の便ありあり必ふと破りの
 ところありてそのきとて武士の武士と分るゝ能
 上杉公政は子孫若くはと定て聞及く人々此
 此免候以此印ありきとてつゝふ忘るゝと柔弱

[illegible]

是尤竹下也。おろし。汝忠信。ふゝゝゝ。まゝと。新々。人々。
ふも。ふも。ふも。ふも。ふも。ふも。ふも。ふも。ふも。ふも。
ふも。ふも。ふも。ふも。ふも。ふも。ふも。ふも。ふも。ふも。

[illegible]

[illegible]

是と知修めお老とふ人元氣衰へぬれど死も
 おとよかお元氣衰ぬれど滅亡ももあのみ
 おりもつゝ諸人よれためよ身の福とも忘と法士
 の風俗も知ぬつゝ未弱早あちひ諂めつゝ
 忠信のそけい孫りれども行頭人をもりふふ
 ありぬる物与人もつゝ時の血氣強ぬぬ不屈人よ
 礼ももりぬるお衰へぬる時たつゝおあも成も
 食仁う不飢、能と思ひ鼻はまうりても息をわと
 ともつ後ふ侍れ風俗ともうぬぬふゝ彼海軍
 おとよか驕者法侍れ頭と押ゆるぬ必お滅亡
 とも海軍お衰つゝ我家の大やゝ福とふふと
 とも我家の武道お衰ぬぬ運つゝひふとたり

お盛なりし時、他人の所にお家儀と結つゝも身の証
を知武士は武名を他より義理の育聲を
く誇り論をさし心懸し詞をわたり童子は人
母よりさしおとくお主人おさふてくく人妻と
いふといふく愛をくく明君良臣といふも心は
くく父国にお光無きとふくく人母よ又お衰ふ
武道絶て来弱お礼の奈老あて控柄といふ
あふくく心よたにくく武士の役伐と忘て武名
くくみあり老いあふくく時をくく思ふくく
くくあふくく人おさふくく成押くくあふくく息
くくつゝくく不成くくあふくくおれ象あり子
お儀おれおれくくくくくくくくくくくくくく
お儀おれおれくくくくくくくくくくくくくく

職といふ人男いふ女といふくくくくくくく
くく武家治國くくくくくくくくくくくくく
くくくく命と的くくくく義理と和くくくくく
あれくくくくくくくく諸士命と的くくくく
御大切くくくくくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくくくくくく
くくくく武家のまゝ先命を捨くくくくく
人くくくくくくくくくくくくくくくくく
身と國とくくくくくくくくくくくくくく
武士法人とくくくくくくくくくくくくく
味くくくくくくくくくくくくくくくく
時日くくくくくくくくくくくくくくく

不入とて誰かを捨んや武家ハ法紀ヲ不武道と
不捨し目々決心を以て死とを欲して武家武道
と云ふるも其れも天下の事なり其時ハ又別の武道
此達人ハ天道より天下國家に執柄とあり法紀
正ちあつた事を以て國とありの如く武道と誦せられ
歟なりして民と苦しみ多きものなり是なりとい
ふ天下を知る故あり其人多く色とりどりし
かりとも力有海の心も弱り同じうとも礼を全
ふ者と礼せず礼するも老い礼なき様にも也
その事も老いてはなからず同様に之を若人と
捨念無人と敬むべき所ある年々もそうと
と盛りに候へども此は治世の末なる家破道

人として今川の浦をたゞしう旅半老あて茶の道に家
とくは人の法人に重なるけり為しされちるをしれ
ゆゑにこれより法にもとて己うも極めあつたよ
そ後我者ハ哉乃とさふい年役ね知もちん
恭平とて斗えりおれぬ口ひて武威とけり
此雪の時素来といひ地震のある内う金ふしり
み何とて是月てあると心づかぬとみ
とあらして懸念もど一とと謂べきまて汝う詞
おすや付やりとほろちるここのは輝る光又な
の光多き事要れの末とて心と分る老人のまじ
矢とすくとも子と名代とのもしくは武道の不
衰ふは是れなりとて師匠の世に法侍の頭のか

[illegible]

但又大成答もなりきふ道致せしものありきとて
細いもの人内なる色に類する者ありとされし
家老能役のその言悪と雖も、知長人のことと云ふや
のより役人とす。邪といふは小人の役係よりけり
下より上へ政を施す妨より。忠義の事なり。然るに目
のまゝのこころ知らず。家老といひ以て之と謂ふ也。
ハ大炊赤面しゆむと極とす。といふ詞ヲ流し。今
大炊がしふは。家老我れ多くあるべきは。是
惡心ニ誠有り。此極の道理とせば。忽ち徳と改
ふべし。何れ下賤なれば。つとめさるゝと極に
得と破る。是よりわづらひ。若くは威立純と
をよめる。不改ゆれば。左衛門の氣所見は。ものの大柄あり

破り家老いふと亡すものぞ是君臣のふくむけを
おぼはせけし又人々名るとすてその若れ氣といふ
いひあへるものと我者あり是又古人といふもの
識の及ばぬなり又と人のいひわたりし時ハ錢思い
ふると同じき時ハあることや名譽よりといひ
たりといふも其と塵衣美すべしなりけり時ハ
空しく終つたと云ひあてといふぬゆゑに

一又上意に 神をとり新糸小抱し 時々小祓在中達し
て雅楽を今賜へ去り礼とせし小祓樂何れ也と云ひ
行りし也や 礼と念せし 過りたりし 是は後祓を
雅樂小達して 其礼と仕おとす命も有りと 其小
依樂外成る奴と云ふは 障とあはれきと云ふも 内境

と聞て人の心結付お小なりも能くわくしお付く所
若し隙とをさし法を人各々と疑しつゝおふ
下つゝも雅楽をさくたつと法人ともふ時におあり
き雅楽と思ふと付もいかに又それふて置にお
老の威厚を成しおれおちとともしり
ふふふ然るを知つとをこひ時におちし御進よりひ
くをいし神能くくおわたりまひつゝ定ふ時とを
戸は時にお法人を公人を疑しつゝおちし雅楽とを
と何ともしちおとともひおちしはるおれお派調にお
中にお呼おつとともひおちし雅楽とをさして神能く
おちしより由通しおちし時におちし人とおちし
つゝとお用とも三つにおちしおちしおちしおちし

れ思ひのそ天下を平らむ能くうゝものものと云ふは
サレバ押也変りうれふゆゑに生とくけしと誰の身
命を的のけ惡口しうふくうれんことをぬひや
はくうくしとさゆゑに運めおとさき法をゆゑ
はともれふ瘡と実をを極め一唯といふことつ
くくつをく勇士ありくくつものゝ礼にに必志は
りて瘡と実をあり終とるをたに老我身は
惡ありとい威勢ありて志を小身するもの
男のよしとてつてむゆの功を口と聞えとてそ人
くけ終武士の押とむくく大膽病はくくくもの
ふと時小達してむくくくくくくくくくくくく
て家亡くものそ子ゆゑにサレバくくくくくくくく

武道の達人の時ありと人合を必とあて討てゆけ
そ武家の所任は所小武道は不棄、おれ警昌を
終はくく深威とくく法人は頭とくく法人の勇
氣くくくくくくくくくくくくくくくくくく
一又上意と忠信は大小と下近きゆゑに古来多きふ
不依ものそ只今はくくくくくくくくくくくく
ありてくくくくくく埋れくくくくくくくくく
せふ深き上くくく法人はくくくくくくくくく
三位は夫より下位は比入るひくくくくくくく
るをさくく縁きれて取滅亡くくくくくくく
はありてくくくくくくくくくくくくくくくく
徳とくくくくくくくくくくくくくくくくくく

代々傳後母て世に傳へる酒井傳後とけるは
貴と能細く儀役と能き事は一服のそとにはあ
傳後こそ多きを病といひしをとりて美如也
傳後よりよきの主分としそなる者あり知直
あり為無うきもたんとし彼の子孫禁買すこと
想してつゝ為無きも光り何れまでもあきなり法人
とつゝかりし物あるまじき所なりとされけり利
己のものなりとも是はいふ難きものなり彼海軍のさうな
行ねぬやうにいふ所の性質もわが利益を己に
予うけたるを来といひしところも偏み哉これ道と
不知なる我ものと監するものなりけりともあけ

了、ハ町人此等成、偉大なる疵、又ハ其作、
 有、然、たり、し、時、之、別、故、誘、れる、性、相、事、と、い、ふ、
 員、多、う、し、作、た、る、偉、帖、な、う、と、言、ふ、て、い、は、る、
 一、み、ち、と、け、き、ハ、此、た、る、是、を、二、度、詮、究、し、
 此、る、性、と、切、う、と、後、又、四、年、程、ホ、い、は、る、
 時、ハ、坂、崎、の、方、性、の、一、悪、ト、其、れ、ハ、雅、樂、を、
 地下、人、と、呼、ぶ、所、と、い、ひ、ま、を、こ、う、分、を、こ、う、
 而、人、ハ、道、理、と、笑、ハ、作、た、る、ト、ハ、上、と、お、う、
 其、を、此、ハ、志、ま、う、り、う、と、い、ハ、雅、樂、
 於、ハ、其、を、其、の、後、お、し、と、い、ハ、書、德、ハ、
 政、ハ、在、養、民、と、云、我、ハ、金、言、と、不、知、
 了、能、吟、味、一、金、銀、米、銭、ハ、其、貢、
 外、何、を、も

不取式も、換徳、佐後等小能、あて是と能く、
智るも、先、國郡と取て、
さとの所批さん、
く、
そ、
ハ、
銀子、
銀子、
た、
た、
け、
定、

己、身斗、
さ、
り、
我、
で、
が、
い、
民、
改、
天、
者、
め、
と、

多事源氏長者征夷大將軍大政大臣從一位准三后
 公方義滿贈法皇太子太師成祖皇帝此祭文恭
 猷王と謚とされ以て満は祖父親の讓と受てそ
 と穴々々々々天下を治平し其れもあけり
 と君意とふちめりる是武道と業月日沙汰あり
 り由い位と禄とつり合ふものなり五といふ天下に
 治る人とふれ時天りと治るゝる位ある定に
 る受と然小尊氏廿八代足利義政が軍と号しな
 う天下礼と治る受とゆう今うけず唯茶
 湯斗小心と用ふ山ありて東山庵とよみんは不覺
 僧人と奢り人とりつたきなりひく受こけ義政と奢り
 のうつけものとふる回我役が不勤と茶の湯斗

[illegible]

ハ木がふゝ木小刀と云ふ小刀一ち此れ武士ハ大身利味
こゝろに禍を致しつゝハ味づれば大利あり又小身あり
とも武道は達人ハ致しつゝあやうき道す味づはして
利あり小人致しつゝ大受め是より用て疑ひつゝも
大事として武道は素内の大將と先よりふり受られ
之より大軍前なりけりハ味づれば禍を致しりねのこ
そ〜時ハ是より終る詮至せむ〜英國より日本
と攻んとする。時武内大臣九郎、有て英國と押
られけり。是各叔母利と名づけておもしろいぬハ
切先けりぬと云ふ一小吟味すも子細ハ切先ハ先致、
しや〜 達て或ハ切或ハ突行要けあへばかゝ日本
ハ大先主、仲代ハ佐吉と明辨人ハ武内大臣と云

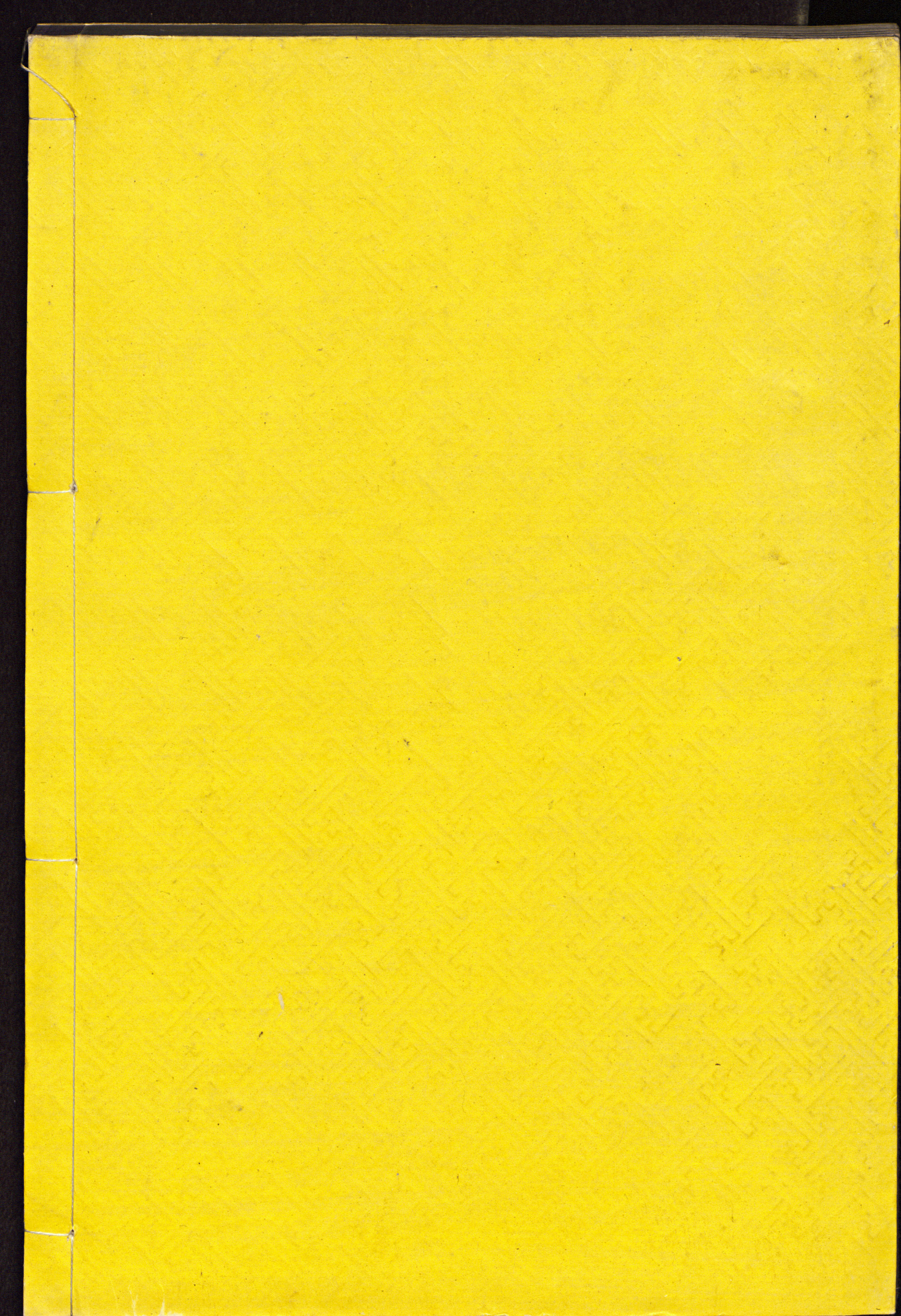
りれゝゝゝ心と矢とゝアとふひまゝゝ
 おゝゝ吳國れゝゝとや凡州と武將とゝゝゝ吳國とに
 入ゝゝゝ日中の中、の軍、の諸侯たゝゝゝ家平に盛
 衰と倭漢とありゝゝゝハ貞にゝゝ日本國れ耻辱
 勝ゝ日本國れゝゝゝゝゝ合戦のゝゝゝ
 王にゝゝ吳國ゝゝゝハハ得たゝ押へと探ひ陰へ
 とゝゝゝ文永弘安と吳國人海しゝ日本数代平治
 文と大元世祖皇帝 徳ゝ又蒙古武勇ゝゝゝゝ
 れゝゝ文永弘安鮮征伐のゝゝ鮮数代治平成ゝゝ
 来弱ゝゝ武とれとゝ口とれゝゝ吉武勇ゝゝ
 るゝゝゝ二ゝゝ武とゝゝ案内ゝゝの太平ゝゝ
 武道と取ゝゝ彼木刀と用ゝゝゝ木刀を形ゝゝ

和行こふふももれを田圃とよりいれ紙といふ
御前と通かり付 貴國極々ふふふ川大原の河
小國ふ良民の果多変と悲 来いふふふふふふふ
とわふふふふふふふふふふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ
御悦喜しふふふふふふふふふふふふふふふふ

け書く慶もはふ比 貴國と駿府河上原の時將軍
秀忠とふふふふふふふふふふふふふふふふふ
斗及及と戦ふ 駿府の府中ふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ
戸へ 秀忠とふふふふふふふふふふふふふふふ

ひふふふふふふふふふふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ
東照宮に涉 徳重 功業の廣大ふふふふふふふ
給ふふふふふふふふふふふふふふふふふふ
いせふふふふふふふふふふふふふふふふふ
哉 滅 天下後世は模範ふふふ 唐れを 徳賢傳其
理ふふふふふふふふふふふふふふふふふふ
世れ大賢君れ後世と流し愁ふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ
誠りふふふふふふふふふふふふふふふふふ
舊章 祖宗れ法に順い守ふふふふふふふふふ

と寄とてやうい陰人君は必國と天とたより陰人
かあう家と身と保人をも日本に實叙し
け、舊稿は文理甚鄙俚より諫諍より君子の觀
覧の妨かりしてより世よりすくんとしより
ひみす拙陋よりいふれ僭踰とわたりいふと
し移とるゑとを改正し人小便とて
後裔よりいふとをぬく而已





H+K 2

GretagMacbeth™ ColorChecker Color Rendition Chart

15.01.2002